

# 婦負森林組合における森林づくり ・木づくり・家づくり事業について

## 森林組合によって 幅広い住宅建築事業を展開

### 婦負森林組合

代 表 者：代表理事組合長 北山虎雄  
事業体の構成等：組合員数 3,716 人、役員 16 名  
（常勤 2 名内数）、職員 19 名、  
作業班員 40 名

〒939-2317 富山県富山市八尾町梅苑町 1-95-1

TEL：076-454-5131

FAX：076-455-0600

URL：http://www.cty8.com/nei-shin/

E-MAIL：nei-shin@cty8.com

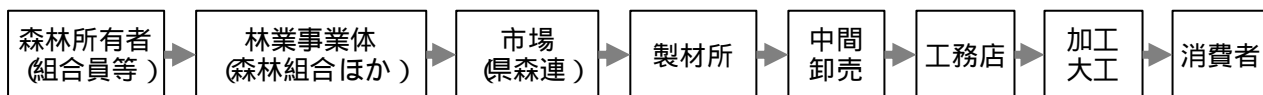


木の舎

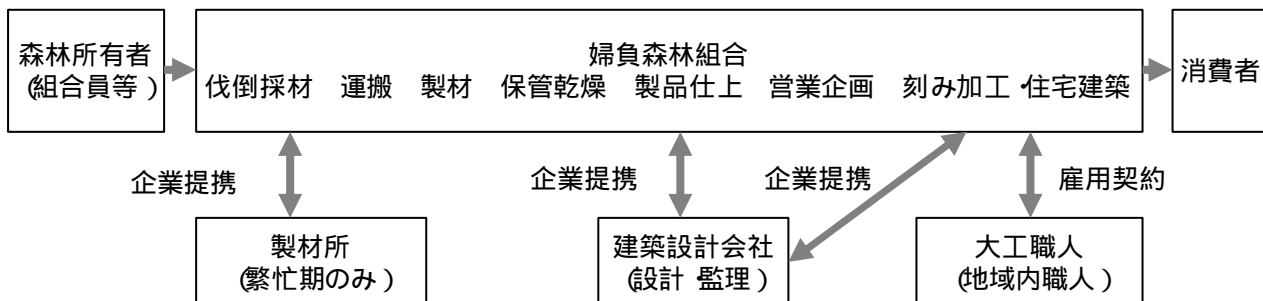


### 事業の仕組み（家づくりにおける“一般的な流通”のイメージ）

これまで]



現 在]



## 事業の目的、内容等

### (1)事業目的

森林所有者である組合員等の森林で、保育育成・作業道開設・伐倒搬出までを直営施業で実施し、生産した木材を組合の製材施設において高付加価値化し、更に、森林組合による住宅建築事業を展開することにより、地域資源として木材の有効活用と組合員の利益を確保し、地域森林を整備推進させることを目的としている。

### (2)事業内容

「森林づくり」について

森林の育成、伐倒・採材、木材の製材、乾燥・仕上げ加工などの各作業工程において、計画的・合理的に、且つ、それぞれのセクションで責任を持って「売れる製品、使って喜ばれる製品」の生産に努めている。

「木づくり」について

#### 【『NE IWOOD』ブランドの創立】

事業の特徴としては、自然乾燥と人工乾燥の使い分けによる低コスト・高品質化、8mまでの長尺材を供給・加工できる体制の整備、森林組合ならではの大径材や曲がり梁材・広葉樹材などの特殊材を確保できる森林情報・供給体制を有していることなど、多品種少量生産型の製材加工施設ながら、「住宅づくり」と連携した「木づくり」事業において、明確なカスタマイズ（差別）化を打ち出し、『NE IWOOD』という地域材ブランドを立ち上げてきた。

#### 【“森林”に還元できる製品づくりとコスト縮減】

地域内で生産される木材が間伐材などの中目材クラスのものがまだまだ主流であること、大径材から“角もの”をとった後からラミナ状の厚板をとることにより歩留まりが上ることなどから、3cm厚の厚板製品を開発し、製材における木材資源の有効活用と木材利用率を向上させることができた。

また、製材品の低コスト化については、

- ・原木購入については、本組合の木材生産のほかにも、他の林業事業体からの持ち込みによる土場での直接購入を行っていること。
- ・製材段階で既に建築する住宅の使用部材を半ば確定した上で、無駄なく加工生産していること。
- ・生産集中時期では、地域内他社の製材所との企業提携により、一次製材などを業務委託していること。
- ・数棟単位の量の建築資材を、部材別に合理的・効率的に加工生産・保管していること。

などから総じて、コスト縮減に努めている。

「家づくり」について

#### 【森林育成から住宅建築までの『産地直送システム』】

木材加工センター内の住宅建築事業では、企画開発・営業・プランニング・建築までの「家づく

りの総合プロデュース」を実施しており、山から消費者までの一貫した産地直送システムを実現し、流通間接経費の削減などによって、組合員（森林所有者）の利益確保とエンドユーザー（消費者）経済的負担軽減を両立させている。

### 【厚板製品の共通仕様化でコスト縮減を！】

建築する全ての住宅について、1・2階の床材や2階の野地板に先の厚板を使用することを共通仕様化した。このことより、構造材や内装材の機能を兼用させ、大引き材・垂木・構造用合板・内装材などを減量・省略することができた。

### 【企業提携による設計部門の強化と営業方針】

設計・監理については、地域の設計事務所と企業提携を結んでおり、施主であるユーザーには、設計士と共に、あらかじめ、地域材の特徴（価格や品質：節・割れなどの欠点も含む）を説明しつつ、施主の予算に応じた木材の利用方法や斬新なデザインが採用された快適な住空間の創造提案をしていく。

特に、組合員への『自分で育てた自家木での家づくり』や組合員以外の一般市民への『環境と健康に優しい地元の木での家づくり』が顧客確保の営業基調となっており、更に、「無垢材と伝統工法による本物志向の家」、「構造材部材を隠さず現した耐久性の高い家づくり」、「地域材での“造りつけ家具”のある家」などの取り組みからも、幸いにも、エンドユーザーのニーズに応えた“納得”と“満足”を得るところとなっている。

現在、コストパフォーマンスに優れた家を提供することができるようになり、契約主流価格帯は、40～50坪/棟の家で、2,000万円前後となってきている。

## 事業の実績、成果

(1)実績：平成 15 年	製材 1,781 ?、住宅建築 3 棟 (91 坪)
平成 16 年	製材 2,415 ?、住宅建築 2 棟 (139 坪)
平成 17 年	製材 3,000 ?、住宅建築 10 棟 (477 坪) 現在予定数量

#### 『NEIWOOD』により建築された公共施設

・富山県中央植物園ドリアスホール (H15)	延床面積 155 m <sup>2</sup> (73 ? 使用)
・富山県有峰文化村有峰ハウス (H16)	延床面積 853 m <sup>2</sup> (521 ? 使用)
・富山市婦中町神保コミュニティーセンター (H15)	延床面積 1093 m <sup>2</sup> (363 ? 使用)
・富山市八尾町化石資料館「海韻館」(H15)	延床面積 690 m <sup>2</sup> (214 ? 使用)
・富山市婦中町音川交流館 (H16)	延床面積 619 m <sup>2</sup> (297 ? 使用)

#### 『NEIWOOD』により現在 (H17) 建築中の公共施設

・富山市八尾町むろの里ふれあい館	延床面積 833 m <sup>2</sup> (369 ? 使用予定)
・富山市八尾町のづみ異世代交流館	延床面積 429 m <sup>2</sup> (120 ? 使用予定)

(2)成果： これまで、森林育成に一辺倒であった組合員が、地域の森林資源がNEIWOODとして次々と利用されるようになってきたため、素材生産や木材加工についての関心が高まってきた。このことにより、当面の地域林業の重要課題となっている間伐施業について、間伐材の利用・販売が活性化され、益々の推進力を得るところとなってきた。

住宅建築については、「地元の木材で家を建てると高くつく」といった既成概念を打ち砕けるだけの生産流通の合理化と地元の木の良さを120%引き出す家づくりを提案・提供できるようになってきた。

特に、これまで根曲がり材や多節材などの規格外・低質材とされてきたものが、家づくり事業の中での新たな活用提案で、『曲線を活かした空間デザインが創造できる』、『節の存在が生きている木材の暖かみを感じさせてくれる』といったプラスの評価に転化されてきている。

また、柱・梁・桁などの構造部材などを隠さない真壁工法や現し木組み工法による家づくりを基本としてきたことにより、NEIWOODの良さを包み隠さずに直接的にPRすることができ「骨太で屈強な造り」が消費者の共感と呼び、“信頼”と“安心”を得ることができたと感じている。

## 今後の取組み

今後の取組としては、木材の性質を見極めるため、“木を活かす”木取り製材とプレカット機械加工でない手刻み加工を重要視し、これまでどおり、伝統工法にこだわりながら大工職人の育成と伝統技術を守り伝えていきたい。

また、今後とも組合員の森林を守り、地域の環境保全に貢献しながら、価格と品質で消費者に喜ばれるNEIWOOD独自の木材流通システムを構築していきたい。

## その他

### 事業体の構成

- ・総務管理課、指導管理課
- ・事業監理部 事業監理課、木材加工センター、林産班
- ・素材生産機械：スイングヤーダ2台、ミニスイングヤーダ1台、プロセッサ1台、フォワーダ1台、小運搬車2台、バックホウ2台、トラック2台
- ・林産加工施設：加工棟2棟、製品保管庫3棟、機械保管庫1棟、製材機、自動4面鉋盤、鋸盤付小割機、4面鉋盤、定寸切断機、自動梱包機、人工乾燥機、フォークリフト3台、トラック2台

## 現地調査結果の概要

調査担当

岡野健（東京大学 名誉教授）

坂本保（（財）日本木材総合情報センター 国内情報部長）

### 1. 富山県内の森林組合

富山県内の森林組合は2組合で、いずれも合併による大規模な森林組合である。

管内森林面積は28,000haほどで、当該森林組合は森林整備、治山、伐出、住宅等の事業を実施している。全体としては黒字になるが、住宅単独ではまだ赤字経営である。

なおこの森林組合では、林業機械メカトログループ(5人)の若手の作業班が活躍している。また当該地域での国産材製材工場は、廃業等で少なくなる中、貴重な丸太の受け皿としての機能を果たしている。

### 2. 木材の供給、住宅等事業の実施

スギ材がほとんどで(銘柄 立山杉)、価格は安く、生産しても山へ還元されるものがないのが現実である。この森林組合では住宅事業を通じて地域の木材を使用して利益を還元し、森林所有者が整備意欲を起こすことを基本としている。

北山組合長がリードして立ちあげたが、自己資金4億円の使用には周囲の猛反対があった。組合長のバイタリティーで打破して今日の木材加工センターに繋がった。

北山組合長(68才)は以前、農機具・森林機械等を販売してきた人で、販売関連やセールス等には優れたものがある。

### 3. 住宅供給に関わるネットワークについて

#### 木材加工センター(平成13年度以降に整備・特異な工場建築物で展示を兼ねる)

国費助成4億円+自己資金約4億円で、製材機・製品保管倉庫等を整備している。

森林組合の役割は、地域材を使用した住宅の販売と、施主との契約や総合調整で、併せて住宅部材の供給も行っている(价格的には2千万円程度の住宅を目標)。施主が喜んでくれれば、口コミで住宅建築依頼が来るという信念で行っている。



加工センター内部

#### 設計・施工監督分野

住宅建築には平成14年度より取組んでいる。専属の設計会社「美 PLANING」と企業提携を

結び全面委託している。地域材を利用した独自の住宅を提案しており、施主は設計士と十分に木材について学習したうえで、予算に応じた木材の使用等について詳細な打合せを行うことになる。3,000万円の住宅で、木材費は500～600万円程度である。

#### **大工・工務店**

この地域には、伝統工芸等の技術を引き継ぐ大工が多数おり、そのような大工20数人と連携している。建築工事現場周辺に居住する大工を選定してお願いしている。メンテナンスの上からも、建てた大工さんとの連携が将来にわたって確保されるように配慮している。技術的に高度なものまで対応できることから施工上のトラブルはない。

森林組合と大工との関係は雇用契約となっている(全面的に大工の主導で実施)。

### **4．建築実績**

年々地域材住宅の情報がPRされ、今年度は10棟を予定している。

#### **・ 工法の合理化**

プレカットなし、金具なしが基本で、床材・二階の野地板を共通の仕様としている。そして地域材住宅の建築費をコストダウンする取組みを徹底している。

#### **・ 木材の供給加工方法**

プレカット加工は実施していない。また内装材等以外は天然乾燥が基本である(人工乾燥機は10?程度のものを保有している)。

材に関しては本組合のほかに他林業事業者からも入る。そして仕様部位に応じた採材の実施等で、丸太の生産コストなどの削減を図っている。また、業務多忙なときには他の製材工場に製材を委託している。

### **5．今後の方向**

「富山の木で家をつくる会」等、取組みを支援する活動体が活躍し始めている。森林行政+森林組合等+消費者(NPO等)の連携で更なる取組みの強化を図りたい。

森林所有者の意識改革としては、丸太の伐出・利用の実践を図る。そして組合長に続くリーダー・製材技術者の育成などに積極的に対応していきたい。

### **6．現地調査のまとめ**

地域材住宅の生産、供給、設計管理、大工等のネットワークがよく図られている。中核となるのは森林組合で、果たすべき各機能の発揮には、森林組合のリーダーに加えて設計・大工各部門に優秀な人材が活躍しているかがキーポイントである。木材利用の実態から無関心であった森林所有者も、自己所有森林の整備・利用に関心を示してきている。

今後は製材加工センター、大工等の人材の育成、また消費者団体との連携も必要である。

しかしながら、国産材の資源に恵まれていない地域で、大きな実績を上げていることは評価に値する。